

をおじいちゃんおばあちゃん、朝早くからお手伝いくださいとお父さんお母さん方に言いました。大きな手をもらって、ちよつとはずかしかったけどうれしかったです。

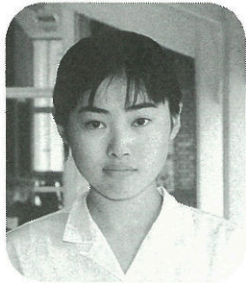
その日の帰りに、一人暮らしのお年よりの方へ、ほくたちみんなでおもちを持っていききました。もちろん、進藤のおじいちゃんに持っていききました。とても喜んでくれたのでうれしかったです。

これからも、お年よりとふれあうチャンスをもっともつとふやして、大切にしていきたいと思います。

町が輝く日

日置中学校 三年

森永 祐子



「おはようございます。」

この一言で、私の一日は幕を開けます。あいさつは、家族や友達だけでなく、知らない人とも気軽に交わせる魔法

の言葉だと、私は思います。自分からあいさつをして、相手が笑顔であいさつを返してくれれば、うれしいものではないでしょうか。

私達の住んでいる日置町は、子供から大人まで誰もがあいさつを交わす、とても明るく住みよい町だと思います。私自身、学校に登校している途中に、何人かの人に出会いますが、あいさつをすると、必ずと言っていいほどあいさつを返してくれます。また、人のあいさつの返し方にもいろいろあって、「いつてらっしゃい。」とか「お帰り。」などと、まるで家族のようにあいさつをしてくださるおばさんや、「寒いねえ、風邪ひいてない？」と体の心配までしてくださるおばあさんもいたりします。そんな人の心の温かさ、

「今日もがんばろう。」という気持ちになり、はりきって学校へ向かいます。

しかし、一歩日置町から出てみれば、そこは日置町とおおちがいに、忙しく人々を通り過ぎる中で、あいさつを交わす人は一人もいないのです。町全体がとても冷たい感じがして、あいさつをするのが当たり前前だと思っていた私の方

が、なぜか恥ずかしくなってくるのです。そんな町の様子に流されてからというものの、日置町から出ると、よほどの知り合いにでも会わない限り、私はあいさつをしようとしなくなりました。

ある日、友達と遊びに出かけた時のことです。駅の近くを歩いていると、一人のおばさんとすれ違いました。私が何も言わずに通り返さようとする、友達の一人が、

「こんにちは。」

と、あいさつをしたのです。相手のおばさんは、急なあいさつにびっくりしたのか、不思議な顔をして何も言わずに通り返してしまいました。しかし、友達は気にもせず歩いていきます。私が

「何であいさつしたん。あいさつ返ってこんほに。」と言うと、友達は平然とした顔で

「ええやん。私がしたかったんやもん。」

と、言ってきたのです。

友達の言葉に、私はハッとしました。あいさつをするのに周囲に流されるのではなく、大切なのは「あいさつをしよ」という、自分の強い気持ちだということに気付かされたのです。

そういうことがあってから、「あいさつはいつでも、どこでも、誰とでも、何度でも」という言葉が私の心の中に刻まれています。そのおかげで、今ではどこに行っても恥かしながら、周囲に流されずにあいさつが出来るようになったと思っと思っています。必ず皆があいさつを返してくれるとは言えませんが、きつと何年たっても、私はあいさつをしてい

ることでしょう。あいさつを交わすことで、今まで以上に明るい社会が生まれると思うからです。いつか、本当に誰でもあいさつが交わされるようになった時、日置町はもう日本中の市町村が、もつと輝いて、魅力的に見えてくると思います。そんな日が来るのを夢見て、私はたくさんの方々とあいさつをする毎日です。

社会を明るくする

運動によせて

日置町保護司会

児玉 全弘



希薄な都会の怖さを感じさせる事件でもあります。人間関係の煩わしさを逃避した現代社会の暗い一面でもあります。今年を社会を明るくする運動は、「ふれあいと対話が築く 明るい社会」がテーマです。毎年行われる運動ですが、もつともつと人の輪を広げる事が大切です。

町内の皆様、まずはお隣の方々との「ふれあい」を豊かにし、会話の機会を増やすように心掛けてはいかがでしょうか。

人と人との絆を強める事が、犯罪や非行をなくしていく近道だと思います。

神戸の小学生が殺された事件は、極めて異常な残忍さで、その精神状態を疑う悲しい出来事ですが、多くの情報があり、あれだけの大海戦術をとつてもなかなか犯人を上げる事が出来ません。人と人との交わりが